

平成十七年度入学試験問題

国 語 一〇一

(前期日程)

(注意事項)

- 1 問題冊子および解答用紙は、係員の指示があるまで開かないこと。
- 2 問題冊子は1冊、解答用紙は4枚である。
- 3 解答は、解答用紙の指定された解答箇所を書くこと。指定された解答箇所以外に書いたものは採点しない。また、裏面に解答したものも採点しない。
- 4 筆答開始後、各解答用紙の「受験番号」欄に受験番号をはっきりと記入すること。
- 5 配布した問題冊子および解答用紙はすべて回収する。

第3問、第4問は選択問題である。いずれか一方を選択して解答せよ。
選択した問題の解答用紙の所定欄に○印を記入せよ。

なお、両方に○印を記入した場合は採点しないので、注意すること。

第1問

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

昨今、読書指導ということが子供に限らず、大人の世界でも盛んに行なわれるようになったことが、果たして喜ぶべき現象か悲しむべき現象かは私は知らない。なぜなら、それは今の大学生などをも含めて、我々大人が子供の時分、いかに正しい読書指導を受けなかったかの恥ずべき不在証明に外ならないからである。大人になつてからは、どんなに努めてももがいても、もう手遅れなことがたくさんあるが、読書の正しい習慣の如きもその一つであろう。大人に読書のすすめをしてみても今更始まらないのである。そういうものは子供のうちに身につけるべきもので、早くに教則本でピアノの基本練習さえみっちりたたき込んでおけば、あとではどんな難曲でも弾きこなせるのと A である。大人は、楽譜を与えられれば、すぐそれがどんな曲であるかがわかるようになっていなければならないのだ。

わが国の教育で、いちばん進んでいるのが小学校教育で、いちばん遅れているのが大学のそれだ、^①というのは私の持論であるが、その進んだ小学校教育でも、読書指導（リーディング・ガイダンス）は、戦後の最も注目すべき新しい分野で、私にいわせると、これからの日本を背負つて立つに堪える新しい世代の形成の成否は主としてこれにかかっているほどである。それなのに、そこには先覚的な善意の教師たちが、子供のための良き書物の不足をかちつつ書棚にちらほらまばらにしか本のない名だけの図書館に子供を集めて、^②徒らに孤軍奮闘している悲壮なすがたが見られるだけだ。それでよいのだろうか――。イギリス人は、庭は子孫（ポステリティー）のために作るといつて、せっせと小さな苗木を庭に植えることから「老後のたのしみ」を始める。我々も自らの「果たさなかった」読書のたのしみを子供にかけることから始めるほど、おおらかにいふものではなれぬものであろうか。

生活の天才であるイギリス人や中国人が、読書すなわち書を読むたのしみとなし、日本人のように^④精神向上とか学問教養とかについていつまでも口やかましいことを言わぬのは、古風ではあるがそこに子供のときの極めて厳格な「読書指導」を受けた教育の基礎があるからだ。ピアノの基本練習に当たるものを遅くとも中学を出るまでに立派に卒業してしまっているのだ。あとは好きなものを好むがままに悠々と味わうということがのこされているだけで、これがまた食事と同じで、最も身になり皮になる精

神の保健法なのである。味わい、たのしみながら、ちゃんと「精神向上」し、必要な教養を身につけているのである。ピアノの基
本練習をせずとも、努力をさえすれば我流にでも「唄う鍛冶屋」が弾けぬこともあるまい。しかし次に「庭の千草」を弾こうとすれ
ば、やはり同じ莫大な労力が必要。しかもいつまでたつても音楽の醍醐味はわからぬのだ。——子供のうちに——何をさしおい
ても、子供の読書指導から始めなければならぬ所以である。

(林達夫『林達夫著作集6 書籍の周囲』による)

問1 空欄 A に入れるのに適切な語を次の中から選び、記号で記せ。

ア 画然 イ 釈然 ウ 漠然 エ 全然 オ 漫然 カ 公然 キ 当然 ク 同然

問2 傍線部①「それ」②「これ」はそれぞれ何を指すか、指示内容を記せ。

問3 傍線部③「徒らに孤軍奮闘している」の意味をわかりやすく言い換えて記せ。また、「孤軍奮闘」の読みをひらがなで記せ。

問4 傍線部④と⑤の「精神向上」について、なぜ④にはカギカッコがなく、⑤にはカギカッコがついているのか。自分なりに考
察し、カギカッコの一般的な用法を述べた上で、この文脈に沿って理由を説明せよ。

問5 傍線部⑥はピアノについて書かれているが、別のことの例えになっている。筆者の言おうとしていることを推測し、傍線
部⑥をピアノの話から本来の話題の話に書き換えよ。その際、「唄う鍛冶屋」と「庭の千草」を別の具体例に置き換え、「我流」
「莫大」「醍醐味」をわかりやすく言い換えて記せ。

第2問 次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

日本人はながく自然を物質^{モノ・リヤル}として客観的にとらえることがなかった。いやできなかったというほうがふさわしい。

季節の移りゆきに微妙な変化を見せる自然そのものに、日本人は心身ともに助けられてきたからであらう。だからこそ日本人は自然の変化にみずからの生を実感し、それが死（落花・落葉）と表裏にあることも知っていた。

平安時代末期に、北面の武士からわずかに二十三の若さで通世^{とせ}した西行^{さいぎやう}が、死を意識したとき「願はくは花の下にて春死なんそのきさらぎの望月のころ」の一首を詠んだことはあまりにも有名だ。

歌聖と仰がれ、後世に絶大な影響を与えた西行は終生、桜を愛し桜を詠みつづけた。私は、西行のこの歌を、だからこそ西行^(ア)らしいと納得してきた。だが、かつて冬の終りにこの歌碑が立つ西行終焉^{まつ}の地、葛城山^{かつらぎ}の西麓になる河内の弘川寺を訪ねたとき、はつと胸をつかれる思いを味わったことがある。

弘川寺の歌碑の近くには桜木がある。西行は如月^{ごとげつ}（旧暦二月）の望月^{もちづき}（十五日）のころに死を迎えたいと願い、その通り建久元年（一一九〇）二月十六日に往生を遂げている。いまの三月にあたると考えれば、願い通り西行は花の下で死んだことになるだろう。だが、如月の望月のころとは、桜はもとより、多くの花が蘇^{よみがえ}ってくる季節でもある。

花の下で春に死にたいと願った西行の思いに、自然の移りゆきに等しい生命の蘇りへの期待があつたとは考えられないだろうか。しかも二月十五日は、ゴータマ・ブッダ入滅の日でもある。ブッダの入滅とは完全なる悟りを象徴し、ブッダその人の人格化のはじまりをも暗示している。歌碑の前に立つたとき、私をつき動かしたのはこの思いだった。

西行の隠遁は世俗への思いをまったく絶つ世捨人のそれではない。山の庵にあつても、都への、愛する人への思いがつねにこのころのうちに交錯し、その思いが桜を、月を主題に歌を詠ませたにちがいない。西行にとっての遁世は、彼の文学を生みだすために決意しなくてはならなかった、こころの関門のようなものだったのではないか。

日本人の自然崇拜は、月の満ち欠けにも吉凶を察知し、そのことが生死への思いを呼びさましてもきた。自然の移りゆきも、森羅万象もわが生死と分かち難くあつたのだ。

近代日本文学に異彩を放った

A

は、桜花がこれほどに鮮やかに美事に咲きほこるのは、その下に死体が埋まっている

からなのだと、

B

の絶頂を支えるそこに死のあることを示唆した。ここにも植物としての桜花の美事な開花を、単なる

自然現象としてだけではとらえられない、日本人の生命観と同義の自然観を、いや死生観すら見ることができらるだろう。

すでに鎌倉時代にあつて道元は、大著『正法眼蔵』の「山水経」の巻において、目の前に広がる山水そのものに本来の生命がまつとうされていることを指摘し、だからこそその山水には、仏の教えが実現しているのだといった。そしてさらに道元はここで「山が動くことを疑つてはならない」という。

私たちがもし、山を景観として眺めるならば、山はむしろ動かざるものとして見えるだろう。だがもし私が、山中深くに分け入り、そこに生きる草木虫魚が放つ生命エネルギーを全身に受け、山が私なのか、私が山なのかという生命の一体感にふるえるならば、山そのものが生き、山が動いているということを疑うことはできない。

道元にとって山水という自然は、

C

がそのまま実現しているに等しい、本来の生命のあり方そのものであつたのだ。

ここには自然観・世界観と同義の宗教観が率直に吐露されている。

仏教者に限らない。芸術家に限らない。日本人は長いあいだ、生と死の観念を、その実感を自然観とつねに分ち難く抱いてきた。

山は動いている。いつときもとどまることなく。そこが生命エネルギーの源流であり、生命存在の原理を情報発信する始原アルゲンにあることを、古代の日本人はいち早く気づいていたにちがいない。日本人はその、いのちの情報を発信する本体を神と認識したのではないだろうか。

(注)

だから日本人は、唯一神教を信じる人々が思い、口にするような自然を支配する圧倒的な神を認識することがない。する必要がなかったのだ。

(久保田展弘『さまよう死生観 宗教の力』による。一部省略)

〔注〕 唯一神教——筆者の言を借りれば「神は唯一であり、全智全能のその神が宇宙を創造し、人間その他もろもろ万物を創造したのだと考える」宗教。

問 1 空欄Aに入る作家名を書け。この作家には「檸檬^{レモン}」、「冬の蠅^{はえ}」、「城のある町にて」などの作品がある。

問 2 空欄B、Cの各々に入るにふさわしい語句を考えて書け。

問 3 傍線部(ア)について、筆者はなぜ「西行らしいと納得してきた」のか、その理由を四十字以内で述べよ。

問 4 傍線部(イ)について、「はっと胸をつかれる思い」とある、その「思い」の内容を、六十字以内で具体的に説明せよ。

問 5 傍線部(ウ)について、「日本人は、唯一神教を信じる人々が思い、口にするような自然を支配する圧倒的な神を認識することがない。する必要がなかった」その理由を四十字以内で述べよ。

第3問、第4問についてはいずれか一方を選択して解答せよ。

第3問 (選択)

次の文章は伴蒿蹊『近世畸人伝』のうち、「近江新六」という男に関するものである。これを読んで、後の設問に答えよ。

近江蒲生郡安土に新六といへる貧農あり。予がもとにありし〔注1〕僕が兄なり。その妹とともに九旬に及ぶ父に孝ある聞こえありて、領主より賜にあづかれり。そのをりとりあへず、予が八幡の家に来て告げしかば、対面して、〔注3〕「いかなることをなせし」ととひつるに、〔注2〕「いとふしきに侍り。いまだ孝といふもののすべきやうをだにしり侍らず。ただとし老いたる人なれば、心に逆らはぬやうにと思ひさぶらふばかりなるに、かく賞し給はるはこころ得ずながら、何にもあれうれしさに、たのむ所の御寺と、この御もとへはとりあへず告げ参らするにてさぶらふ」といひき。〔注4〕そのさまつゆも言を飾るにはあらず、おもふままをふつつかにいひたるなりき。他日その里の人にとへば、〔注5〕「この親常に檀寺に詣づる事を喜ぶに、さのみ遠からねど、九十の翁なれば、行歩かなはず。それを日毎に竹輿にのせて、妹とともに昇て、心のままに詣でしむ。湯を浴する時は、おとどひ抱きかかへて浴せしむ。何をといひたてて希有なりと言ふべきことはなけれど、暇なき身にてかくあつかふなん、及ぶべきことにはあらず。ただその身はさも思はぬさまなり」といひき。予がもとに使ひしものはこの前死して、年月もややつもりたれど、昔わすれず時々に来とぶらひしかば、このをりもかくとみに告げたるなり。〔注7〕忠臣は孝子の門にもとむといふもおもひしられ侍り。されば彼告げたりし時、予も端布をあたへて、よろこびをのべ、またかれが心得やすかるやうに、
うらやまし親につかへてまことある人ぞと世にもあふぐほまれは
と、うちおもふまを書きつけてやりき。

〔注〕 1 僕——男性の使用人。

2 賜——褒美の品物。

3 八幡——近江の地名。近江八幡。

4 檀寺——檀那寺。

5 昇て——担いで。

6 おとどひ——妹と兄。

7 端布——裁ち残りの布切れ。

問1 波線部A「し」について次の問いに答えよ。

(1) この語の品詞と活用形を答えよ。

(2) この語と同一の単語(活用形はとわない)は、波線部Aを除いて、文中にいくつあるか答えよ。なお、この語がサ行四段活用動詞に付く場合、萬葉の時代には「申せし」のような付き方するのが普通であった。

問2 波線部Bについて次の問いに答えよ。

(1) 「すべきやうをだにしり侍らず」の部分を分かりやすく現代語訳せよ。

(2) 新六の里の人の発言の中に、波線部Bと内容的に照応する部分がある。その部分を抜き出せ。

(3) (2)で抜き出した部分を分かりやすく現代語訳せよ。

問3 傍線部①、②、③を分かりやすく現代語訳せよ。

問 4 新六の里の人は、新六と妹の親孝行な行為をどのように評価しているか説明せよ。

問 5 波線部Cについて次の問いに答えよ。

「忠臣は孝子の門にもとむ」とは、「忠臣を求めようと思えば、孝行者の家から求めるべきである」という意味の中国のことわざである。ここで蒿蹊が「おもひしられ侍り」と述べているのはどのような経緯を踏まえてのことか、本文に即して分かりやすく説明せよ。

第3問、第4問についてはいずれか一方を選択して解答せよ。

第4問 (選択)

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

死生亦大矣。聖人教人、未嘗語及死生之故。但曰「未知

生焉知死。」幽明一貫、蓋難言之矣。莊生汪洋自恣、至

於齊、萬物、小天地、彭殤一致、菌椿共年、似也。然其言曰

「人而無情、安得謂之人。」其妻死曰「是其始也、吾安能

無慨然。」即此兩語、則其底裏亦自不與人異矣。釈氏雖談空

說有、然於生死輪廻之際、不免拳拳諄復焉。纔覺牽罣

便成障礙、不如生老病死、時至則行、猶為達者之言也。

(謝肇淛『五雜俎』による)

〔注〕

- | | | | |
|---|---------------------|---|-----------------------|
| 1 | 汪洋——限りなく広い。 | 2 | 彭殤——彭は長寿の者、殤は若死にの者。 |
| 3 | 菌椿——菌は短命の植物、椿は長命の木。 | 4 | 慨然——うれいかなしむさま。 |
| 5 | 底裏——本心、本音。 | 6 | 拳拳諄復——つつしんでくどいほど繰り返す。 |
| 7 | 牽罫——こだわり。 | | |

問1 傍線部 a、b、c は歴史上の著名な人物を指す。解答欄の c の例にならつて、a、b の各人物の通用の名前とそれぞれ

が説いた教えとを空欄に記入せよ。

問2 傍線部①、②を書き下し文に改め、かつ口語訳せよ。

問3 傍線部 A を口語訳せよ。

問4 傍線部 B の「達者之言」が含まれている意味内容を「纔力二」以下の部分を使って、できる限り詳しく説明せよ。